

三倉山

日光国立公園・三倉山登山コースは、那須連邦流石山・大倉山・三倉山の三山の尾根を縦走するコース。白煙の茶臼岳や神秘的なたたずまいの朝日岳を展望できます。

三倉山は加藤^{かよたに}谷川と大川が合流する付近の121号国道から見るのが一番良いでしょう。石仏や道標のあるこの場所からは、7月中旬であれば約85haもの面積を誇るニッコウキスゲの群落を見ることが出来ます。ニッコウキスゲは一般的に湿原に咲くものですが、大峠には霧と雨が多く、そのおかげでここ大峠に咲くことが出来るのです。その他にも、春にはツツジ、秋には燃える紅葉と、大峠は四季それぞれに楽しめるトレッキングコースです。

大峠を直進すると三斗小屋温泉、右は流石山を経て、三倉山、大倉山、左は三本槍岳へと続きます。流石山へは何回か急登を繰り返しますが、その苦しさを豊富な高山植物がやわらげてくれます。10月にはハクサンフクロの草紅葉が素晴らしいです。

流石山から大倉山へは約1時間で、ハイマツやシャクナゲの気持ちよい尾根をアップダウンしながら進みます。大倉山の向こうに三倉山が一段と高く、遠く見え隠れする頃、県境尾根に池塘が二つ現れます。最初は明るい小さな^{ことう}池塘ですが、二つ目は10m四方程度の広さで、五葉の泉と呼ばれハイマツやシャクナゲなどの灌木に囲まれたここだけ薄暗く、別世界の観があります。

ほどなく大倉山の頂上に着きます。山頂には朽ち果てた山頂標があります。三倉山本峰へは少し下って、やせた尾根の急斜面を登り返します。大倉山からは遠くに感じた三倉山の山頂も30分程度で足下にすることが出来ます。山頂は意外に広く、大峠から西の山塊では標高1888mの最高峰で、360度の大展望台です。これまでたどってきた流石山から大倉山の稜線が長く延び、その先に三本槍岳、右に茶臼岳の噴煙が白く見え、左に意外と近くに旭岳が西壁を見せてそそり立っています。下山ルートは往路を戻った方が安全に下山できます。

- 参考コースタイム／林道大峠線終点（30分）大峠（1時間10分）
流石山山頂（1時間10分）大倉山山頂（30分）三倉山山頂（2時間30分）
大峠（20分）林道大峠線終点（頂上までは4～5時間かかる）
- 標高 ／1854m
- 登山難易度／中級（登山道有）
- 登山適期 ／6月中旬～10月下旬

- 旧会津中街道の石畳は旧会津西街道が現在の五十里湖付近で通行不能になった時代に開かれた街道です。使用されたのは短期間であったようですが、現在も石畳を見ることが出来ます。

三本槍岳

栃木県との県境に位置する三本槍岳へは甲子峠や茶臼岳から主稜線をたどるコース、あるいは三斗小屋温泉から熊見曾根を登るコース、そして大峠あるいは鏡ヶ沼から登頂するコースがあります。

その名の起こりは、現在この山は福島・栃木の県境ですが、昔は会津藩（23万石）、白河藩（11万石）、黒羽藩（2万石・栃木）三藩の境であったといわれています。その境界を決めるとき、三藩がそれぞれに槍を持って登り、槍を立てたことから、この名が起こったと伝えられています。

三本槍岳頂上には一等三角点が置かれているから、その展望は素晴らしいものです。遠くは日光連山、高原、男鹿山塊、三角形の燧ヶ岳から会津駒、吾妻、安達太良、磐梯^{ぼんだい}などが一望できます。

ここでは大峠からのコースを紹介します。南会津郡下郷町野際新田を通り、大峠を目指して未舗装の車道を行き、鎧沢橋を渡ります。車が10台程置ける駐車場から15分程で大峠と鏡ヶ沼との分岐点に着きます。左に進みカラマツ林の中のハイキングコースを登り、1時間で鏡ヶ沼の畔に出ます。この沼は片目の大蛇が美女に化けて、南倉沢の猟師大蔵を惑わそうとしたという伝説があります。沼はカルデラで最深部は17.8mあり、モリアオガエルやニッコウサンショウウオの生息が知られています。水辺の側にはイチイ（アララギ）が茂っていて10月には赤い実が鈴なりになります。

その先、雑木林の道は急ですが、30分程で主稜線に出ます。北側に須立山が見え、南側には三本槍岳が見えてきます。1660mの主稜線鞍部から40分で1860mの肩に出ます。ここが下野・磐城・岩代の本当の境界線になります。ガンコウランやハイマツ等の地を這うような植物の中の登山道をゆっくりと山頂に近づくと「裏那須」とも呼ばれる流石山・大倉山・三倉山の県境稜線が峠沢の向こう側に延びているのが見えます。三角点標石はザラ地の中にあります。周囲には段があるので、休憩するにはちょうど良い場所です。景観は、猪苗代湖の向こうに磐梯山、吾妻連峰、安達太良山、さらに飯豊連峰も望むことができ、一等三角点の山から眺望を欲しいままに出れます。

下山時は、往路を戻り、標高差449mをゆっくり下りながら、右手に鏡ヶ沼を見下ろします。その先には旭岳が見えます。左手は一面の笹原で熊見曾根に続いています。ナナカマドやダケカンバの紅葉は、笹の緑色に映え、とても美しい眺めです。また盛夏の頃には、コースはハクサンフウロ、ニッコウキスゲ、コバイケイソウ等に彩られ、標高のわりには高山植物が豊富です。大峠で一息入れた後、峠の石祠を後にして駐車場に下ります。勾配が緩くなると石畳が現れて、藩政時代に往来が盛んであった事を偲ばせます。また大峠は大倉山・三倉山、あるいは三斗小屋温泉への拠点ともなっています。

● 参考コースタイム／日暮の滝（1時間10分）－大峠林道終点（40分）－大峠（1時間15分）－大峠分岐（15分）－三本槍（30分）－鏡ヶ沼入口（1時間10分）－林道終点（1時間）－日暮の滝

● 標高 / 1917m

● 登山難易度／中級（登山道有）

● 登山適期 / 5月上旬～11月中旬

● 参考コース／

林道大峠線終点－大峠－三斗小屋温泉－茶臼岳－朝日岳－三本槍岳－鏡ヶ沼－林道大峠線終点
林道大峠線終点－大峠－三本槍岳－鏡ヶ沼－林道大峠線終点

※ 帰りの交通の便を考えれば、三本槍岳から南へルートを取り、表那須の大丸温泉へ下山するコースも考えられます。

中山

国指定天然記念物「中山風穴特殊植物群落地」があり、三等三角点の山です。湯野上温泉街を見下ろし、大戸岳や小野嶽・那須の山々を望むことができます。

会津若松より国道121号を南下して、湯野上温泉出口左側のガソリンスタンド手前右側に、「国指定天然記念物中山風穴公園入口」の木柱が立っています。国道から入るとすぐ急な登りとなります。登りきると右側に大きな案内板があり舗装路を直進して行くと左側の池の側と奥に駐車場があります。トイレ、大川ライン展望台などがあり、車の場合はここまで入れます。案内板のそばに「金塚荘」というお休み処があります。案内板の所より「塔のへつり」と書いてある方へ進みます。右に第三特殊植物群落の指定地、風穴冷房が2ヶ所あり左は第四指定地となっています。雑木林を進むと杉林と変わり林道へ出ると「塔のへつり・中山風穴」の道標があります。右へ曲がると「牧野入会林野組合」の看板があり、車止めがあります。ここから先の車輛の出入りは出来ません。

しばらくはコンクリート舗装の登りが続きます。右、左と折れながら雑木林の南斜面を登って行き、杉林へ変わってくると山の西側です。林道が登りから平坦になってきたら電柱が見えてきます。3台から4台駐車可能な広場に着いたらあと少しで山頂です。右側の杉林の中に一直線になった階段があり、これを登って行くと電波中継所があり、ここを左の方へ進むと稜線が出て山頂へ続きます。中継所よりは整地されていないがしっかりとしています。山頂にも中継所がありここより少し北に三等三角点があります。展望は低山のわりには大変良く、北に小野嶽その右に大戸岳、眼下には湯野上温泉の町並みが見えます。南には下郷町と南会津の山々が見渡せます。山頂には樹木が切り払われ、小さな広場となっています。ゆっくり休むには良いところです。

下りは来た道を尾根を踏み外さないように電波塔まで戻ります。風穴第六群落地まで戻り、今度は林道を外れて真っ直ぐ山道に入ります。広葉樹林の明るい林の中のゆるやかな登りから、展望の得られる地点に出ます。国道とその上の台地に大川ライン展望台、いこいの広場が見渡せます。再び樹木の中に入ると中山南面をジグザグに下る道になり、第五群落地まで往路と合わさります。あとは展望台のある駐車場まではすぐです。

- 参考コースタイム／湯野上温泉駅（20分）－登山口・案内板（50分）－牧野入会林野組合看板（30分）－階段入口（20分）－山頂（40分）－登山口・案内板（20分）－湯野上温泉駅
- 標高 / 856m
- 登山難易度／初級（登山道有）
- 登山適期 / 4月上旬～11月上旬
- 中山（金塚山）は、半日あれば往復することができます。下山後は、湯野上温泉にてゆっくりと体の疲れを癒してはいかがでしょうか。湯野上温泉は、筋肉痛や関節痛、疲労回復、その他たくさんの効能があります。時間があれば中山風穴を散策してみるのも良いと思います。

小野岳

小野岳の山頂に至る登山道は、大内宿コース、小野コース、の2ルートあります。それぞれから山頂往復するか、または交通手段を工夫して別ルートで下山することも考えられます。いずれも山頂までは約2時間から3時間とみれば良いでしょう。ここでは、一般的な大内宿登山口から山頂、下山は湯野上口とします。

大内宿登山口は、大内宿から大内ダムに向かって約1500m行ったところに小野岳登山口の標識があり、ここから林道をさらに進むと広い駐車スペースがあります。広場のすぐ手前から杉林の中に登山道があり、緩い勾配の登りをたどります。小沢の水場を過ぎると、沢沿いの道は、勾配がきつくなってきます。やがて、送電線見回りの道との分岐に出ますが、左に登山道を進みます。急勾配の道には階段が設置されており、杉林からブナのミズナラの林に変わった樹林帯を登り詰めると尾根に出ます。左の大きな送鉄塔の下は、草地になっており、休憩には最適ですが、あまり見晴らしは良くありません。空しか見えないという意味か標識には「天望台」と記されています。

尾根道はブナの見事な樹林帯の中を進みやがて沼尾沼を取り囲むように連なる主稜線に出ると送電線見回りの分岐には標識があり、右に折れます。やがて1223mのピークを過ぎると沼尾沼から登山道と合流します。笹と樹木で下をのぞく事がなかなか出来ませんが、登る途中に木の間からかなり下の方にちらっと沼尾沼が見えてきます。沼尾沼は、その昔、牛の首を投げいれ雨乞いをしたといわれ、神秘的な色の水をたたえています。最後の急勾配を登りつめると山頂の広場に到達します。小さな石の祠と山開きの記念プレートがたくさんあり、近くに二等三角点があります。南側は、展望は、あまり良くありませんが東には大戸岳、遠くは、磐梯山、飯豊山、西には博士山、志津倉山などが望めます

下りは、深い笹の中を西に進み、南に回り込むように進むとブナなどの樹林帯に変わります、やがてジグザグの急勾配の道を下り、伐採地を過ぎると杉の植林地に出ます。登山口の標識から左に山腹を巻くように林道をたどるとやがて小野観音堂に到着します。急な車道を下り、国道121号に出ると湯野上温泉駅や、温泉街は近くです。

● 参考コースタイム／

大内宿登山口（40分）－送電線鉄塔（30分）－送電線見回り分岐点（50分）－小野嶽山頂（1時間30分）－小野嶽登山口標識（湯野上口）（20分）－小野観音堂（20分）－湯野上温泉

● 標高　／1383m

● 登山難易度／中級（登山道有）

● 登山適期　／5月上旬～10月下旬

※ 一般的な大内宿登山口から小野観音堂に下りるコースを載せましたが、このコースは勾配がきつく、ヒザへの負担がかかりやすいので、負担を少なく、楽に下りるなら、小野から登って大内へ下りるコース、大内から登って大内へ下りるコースが足への負担が軽く、お勧めです。山開きは毎年5月の最終日曜日に開催されております。

流石山

大峠までのルートは、三倉山と同じです。大峠からの展望はとても素晴らしいものです。東の三本槍岳から目指す西の流石山へは、空につながるような明るい稜線です。南側は隠居倉から茶臼岳への山々、沼原と調整池。北側に目をやれば三角錐の旭岳

(赤崩山)が目の前に大きく広がります。ここから流石山までは約1時間強の登りですが、見上げるような急登で始まるので、ゆっくり着実なペースで歩を進めましょう。

大峠から上は、日本海側の気候の影響をまともに受ける雪の多い稜線です。一帯は灌木と草の穏やかな斜面で、7月から8月にかけては高山植物が咲き乱れ一面お花畑となります。足元のニッコウキスゲ、ハクサンフウロ、ウサギギク、コイワカガミ、

ハクサンチドリなどを楽しみながら急登の疲れを癒します。秋は草紅葉に染まります。

ひと登りで岩のガレた台地状の穏やかな傾斜地に出ます。振り返れば大峠から三本槍岳へ向かって長い稜線が延び、その上に登山道がはっきりと確認できます。しばらく直登が続きます。先ほどの大峠は遥か下になり、高度を稼いだのがわかります。やがて高山植物帯の中にポッカリあいた小さな広場に出ます。さらに見上げるように深いササ原の急登が続きます。道が穏やかになり稜線下の栃木県側をトラバース気味についでいるササ原の道となれば、後は穏やかなアップダウンが待っているだけです。シャクナゲ、ハイマツの小灌木の中を進めば、やがて会津側の村々も一望できるようになります。頂上と間違えやすい小さなピークをひとつ越して、穏やかに下り、右へカーブしながらハイマツの中を少し登り返します。三等三角点のある流石山山頂(1812.5m)です。小さな広場で休憩が出来ます。会津側の展望は良く、遠くの飯豊の山々も見渡せます。帰りは往路を戻った方が安全に下山できます。

- 参考コースタイム／日暮の滝(1時間10分)－林道大峠線終点(40分)－大峠(1時間10分)－流石山(1時間)－大峠(30分)－林道大峠線終点(1時間)－日暮の滝
- 標高 /1813m
- 登山難易度／中級(登山道有)
- 登山適期 /6月中旬～10月下旬

峠

1. 大内峠

17世紀初め、宿駅として整備されだした大内村の起源は定かではありません。

1571年の古文書中に「大内邑」として記され、1610年には大内村として、記されていることから、会津藩以前に大内はあったものと思われます。ただ、1643年保科正之の会津入りを前後に、宿場としての陣容を整えていった大内も、それ以前は単なる集落に過ぎませんでした。そして、それまでは生活道路として、南山地方との往来はあったものの、街道としての性格を発揮するようになったのは同じく17世紀初めからでした。

難所の氷玉峠、大内峠を越え、大内集落を通り、南山から日光へ、そして江戸へと抜けるこの街道は「下野街道」と言われ、「日光街道」または「今市街道」とも「会津西街道」ともいわれました。若松から本郷、関山を過ぎ、標高900mの大内峠を過ぎて大内宿、それから倉谷、檜原を通して田島に出て、山王峠を越え、藤原、高德を経て今市に至るまでが日光街道です。そこからは宇都宮を経て、江戸へもまた西の日光へも達しました。

2. おおとうげ 大峠

野際新田から三斗小屋温泉、板室、矢板へと通じる松川新道には、標高1486mの大峠があります。昔、会津から関東地方を結ぶ主要道は会津若松一本郷一大内宿一下郷一田島町を経て山王峠を越え栃木県藤原から今市に出るルートで、俗に日光街道と呼ばれ会津松平藩時代の参勤交代や藩米の輸送路でもありました。ところが天和3年(1683年)9月1日に地震のために日光御領の戸板山が崩れ、日光街道の五十里村がせき止められてできた湖(現在の五十里湖)に沈み、通行不能となってしまいました。江戸幕府は、新道の開作に乗り出し元禄8年(1695年)9月から10月初めに完成させました。新道は会津若松を南下、大内宿や田島町を通らず下郷町塩生から東に折れ松川、野際新田から大峠を越え茶臼岳の裏を通り三斗小屋から板室を経て日光街道に出る、つまり加藤明成の通った道で「南山松川通り」と呼ばれました。会津藩の参勤交代の道として野際新田と栃木側の三斗小屋に口留番所が設けられ、行き交う旅人や荷馬で賑わいましたが、深い谷と険しい山合いの連続で風雪雨の被害が絶えず、僅か9年目の宝永元年(1704年)に脇街道に編入され人影まばらな裏街道となってしまいました。戊辰戦争の際、西軍が栃木側の三斗小屋宿から大峠を経て野際新田に攻め下り、両宿を焼討ちしました。このため三斗小屋も野際新田もすっかりさびれ、現在は三斗小屋は廃村、30戸を数えた野際新田もみんな麓に下り住家は3戸程しかありません。口留番所跡や元禄8年に建てられた駒返しの碑、旧街道跡も夏草や雑木林の中に埋もれて、ひっそりと静まり返っております。

大峠にはもう一つの機能があります。それは信仰の道としての機能です。白湯山参りの白装束の人々がここを通り、大峠の頂上近くにある賽の河原の石の地藏様に小石を供えて祈りを捧げたと言われております。

3. 氷玉峠(関山峠)の由来

高倉宮は、山本村(現在の大内)に二泊し、村人の戸右衛門という者の案内で、峠を越えようとして頂上まで登りましたが、大風が吹いて通ることが出来ず、再び戸右衛門の家へ泊まりました。

宮の行方を追っていた石川冠者有光が、宮の一行が山本に滞在しているのを聞き、二百騎で押し寄せて来ましたが、峠の頂上まで登ったときに、またも大風が吹いて、さらに火の粉が降ってきたため、石川勢は、やむを得ず引き返しました。この不思議な現象が、宮を助けたと言われ、このときからこの峠を火玉峠と呼ぶようになりました。

この地は火玉村と云われましたが、寛永四年(1627年)加藤嘉明よしあきが火を忌み嫌って福永村と改めたとあり、峠も氷玉峠と改められました。

4. 市野峠

古くから会津の西方平坦部から下野街道を通ずる駅所として、市野峠を越えて大内駅に継ぐ要所でした。越後より下野へゆく街道として利用されてきました。

今も市野馬つぎ場の名残りを示す馬宿が残っています。市野から南の山が市野峠で、南会津郡境まで広大な山地で、峠路には今でも石畳の道が残っています。

下野街道の本街道である関山道の氷玉峠と、この市野峠の道は大内の追分沼（大内沼）で合して大内村に入ります。

5. 結能峠

高田から12km離れた所である結能集落をを南へ南へゆくと結能峠を越えて南会津郡下郷町大内の集落に通じています。また大内への本街道である坂下一高田一市野一大内の市野道にも抜けることができます。結能峠の手前から市野峠を越えるとすぐ市野道に出られます。

大内へ出るには、この結能道の西に、東尾岐の最南端の桧和田から抜けると桧和田道があります。高田から大内に行く道はこの3本がありますが、この結能道と桧和田道は大内への間道、または脇道として用いられてきました。

現在は荒れ放題で交通は不能となっています。

これらの峠はいずれも下野街道の宿駅である大内宿に通じていました。そして桧和田道と結能道は、新潟より越後街道を通り、坂下束松峠を経て高田に至り、南会津郡へ抜ける間道としての存在であったと言われていました。